

## 投資の基礎講座 「金利が上がると株価は下がる？」

CFP®認定者  
日本FP協会群馬支部副支部長 大谷 明

金利と株価の関係で「金利が上がると株価が下がる」と言われています。一般的な説明では、「金利が上がると株式のようなリスク商品から金利の確定した債券や預金に資金が流れるため株価が下がる」とか「金利が上昇すると貸出金利が上昇するので企業収益が悪化し株価が下がる」と言うのが多いのではないのでしょうか。

たしかに、日々のNYダウと金利の動きを見ていると、金利上昇観測が強まると株価が下がり、利上げ打ち止め観測が強まると株価が下がっていることが多いのは事実です。また、このところ株価指数の動きが乱高下しますが、その要因として日銀のゼロ金利解除や米国の利上げ打ち止め時期を巡る思惑が絡んでいることがあげられます。

しかし、必ずしも「金利上昇 = 株価下落」になるとは限らないのが相場の世界です。一般的に金利が上昇するときは景気がいいときですから、企業収益は良好ですし、先行きにも明るさが見えているはずで、景気拡大や企業業績が好調であることは株式相場にとってはプラス要因ですから株価は上昇しやすい状況といえます。

現在の景気状況や金利水準を見るなど総合的に判断する必要があります。

### 先週の金融市場データ

週間高低表(終値ベース)	週初	高値	安値	週末終値
日経平均株価	15,152.40円	15,505.18円	14,886.11円	15,505.18円
TOPIX	1,548.97	1,586.96	1,527.51	1,586.96
東証1部単純平均	470.44円	476.84円	464.18円	476.84円
東証1部売買高	1,500,895千株	1,651,157千株	1,428,744千株	1,651,157千株
ニューヨークダウ平均	11,045.28ドル	11,190.80ドル	10,924.74ドル	11,150.22ドル
NASDAQ	2,133.67	2,342.57	2,100.25	2,172.09
10年国債利回り	1.900%	1.920%	1.900%	1.920%
債券先物中心限月	131.86円	131.86円	131.58円	131.65円
無担保コールO/N	0.055%	0.060%	0.016%	0.027%
円TIBOR 1ヶ月	0.16818%	0.18273%	0.16818%	0.18273%
円TIBOR 3ヶ月	0.33000%	0.34727%	0.33000%	0.34727%
ドル/円相場	116.25円	116.39円	114.65円	114.65円
ユーロ/円相場	146.34円	146.34円	145.68円	145.77円
1ユーロ = ドル	1.2588ドル	1.2714ドル	1.2551ドル	1.2714ドル
米国FFレート	5.0000%	5.3125%	5.0000%	5.3125%
米国10年国債利回り	5.23%	5.24%	5.14%	5.14%

### スーパー定期(ニュー定期)金利表

平成18年7月3日現在

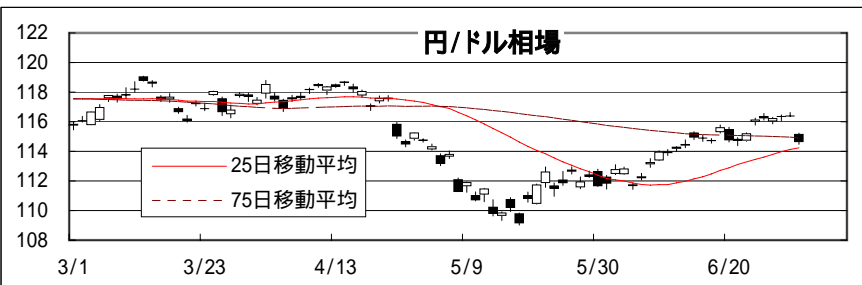
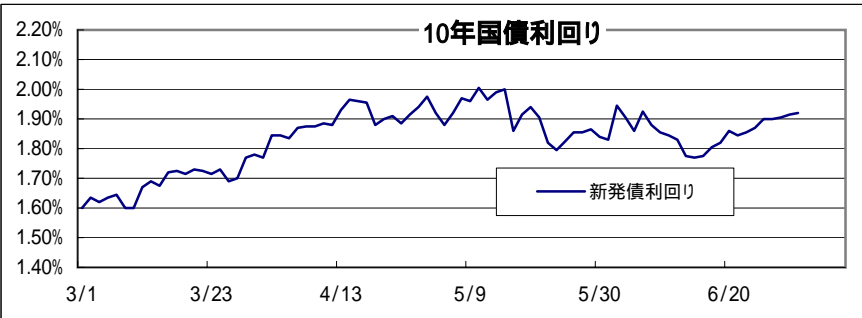
	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	2年
群馬銀行	0.02%	0.02%	0.02%	0.08%	0.13%
東和銀行	0.02%	0.02%	0.02%	0.08%	0.13%
高崎信用金庫	0.02%	0.02%	0.02%	0.08%	0.13%
郵便局	0.02%	0.02%	0.02%	0.08%	0.13%

### 骨太の方針

7月7日に「骨太の方針」が閣議決定されます。骨太の方針は、正式名称を「経済財政運営と構造改革に関する基本方針」といい、2001年の小泉内閣発足以来、経済財政諮問会議(首相の諮問機関)が毎年6月に策定しており、今回が第7弾となります。日本が直面する重要課題を踏まえつつ、小泉内閣が進める構造改革の方向性を示すとともに、毎年夏から始まる翌年度予算編成に向けての基本的な指針として位置付けられています。経済財政諮問会議において答申され、閣議で決定されます。

国の政策を「PDCA(Plan, Do, Check, Action)」で推進することとしていることが特徴です。

今回の「骨太の方針」小泉内閣最後のものとなります。



### 今週の株式相場見通し

先週の株式相場は、米FOMCを控え模様眺めの展開となりました。FOMC後の声明で利上げ打ち止め観測が強まったことから米国株高となり、週後半から上げ幅を拡大し、日経平均は6月5日以来約1か月ぶりに15500円台を回復しました。

今週の株式相場は、失業率の低下、消費者物価の上昇など景気拡大の動きが続いていることから大きく売られることはなさそうです。しかし、日経平均株価が15500円台に乗せたことで目先の戻りの達成感が出ることで、7月の利上げ観測も煽られており上値は限られるものと思います。日経平均株価で15000~15700円程度での推移となりそうです。

日銀短観や米国の景気減速懸念、原油動向などで大きく振れる可能性もありますが、当面レンジ相場が続くものと思います。

### 今週の債券・為替相場見通し

先週の債券相場は、日銀のゼロ金利解除が7月にも行われるのではないかと観測から軟調な展開となり、10年国債利回りは1.92%まで上昇しました。

今週の債券相場は、1.9%台では値頃感からの買いが入ること、円高が振れていることなどから金利上昇は一服するものと思います。10年国債利回り1.85~1.92%程度での推移となりそうです。

先週の為替相場は、日米金利差から円安基調が続いていましたが、米金利の利上げ打ち止め観測が強まったことから一転ドルが売られ、1ドル = 114円台半ばまで円高・ドル安が進みました。

今週の為替相場は、日本の利上げ観測、景気拡大基調が続いていることなどから円が買われやすくなりそうです。1ドル = 114円程度での推移が予想されます。

CFP®, CERTIFIED FINANCIAL PLANNER®およびサーティファイドファイナンシャルプランナー®は、米国外においてはFinancial Planning Standards Board Ltd. (FPSB)の登録商標で、FPSBとのライセンス契約の下に、日本国内においてはNPO法人日本FP協会が商標の使用を認めています。

本資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、取引の勧誘を目的としたものではありません。ここに記載されているデータ、は信頼できる各種情報源から入手したものです。その正確性や完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された見解や予測等は資料作成時点における個人的意見であり、ライフプラン21が保証するものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。